

河合雅雄・杉山幸丸
大沢秀行・森 明雄

研究報告・その他

- 1) Shotake, T. and K. Nozawa (1982): Genetic variability within and among herds of gelada baboon, *Theropithecus gelada*, in Central Ethiopian Plateau. In: Molecular Anthropological Studies on the Phylogenetic Relationship among Ethiopian Baboons, *Papio anubis*, *Papio hamadryas* and *Theropithecus gelada*. Report of Grant-in-Aid for Scientific Research (C). pp.26-39.
- 2) 野沢 謙 (1982): 動物家畜化の遺伝学。「Domestication の生態学と遺伝学」(京大霊長研) pp.1-12。
- 3) 野沢 謙 (1983): 日本の家畜とその系統。「日本農耕文化の源流」(佐々木高明編, 日本放送出版協会) pp.213-254。

学 会 発 表

- 1) 野沢 謙: 生化学的遺伝標識によるニホンザルの群れの近交度の評価。第27回プリマーテス研究会 (1983)
- 2) 庄武孝義, Charles Santiapillai: トクモンキー (*Macaca sinica*) の群内群間の遺伝的変異性。第27回プリマーテス研究会 (1983)
- 3) 川本 芳, 野沢 謙, Tb. M. Ischak, Jatna Supriatnu: インドネシア産カニクイザル (*Macaca fascicularis*) 群集団の遺伝的分化。日本遺伝学会第54回大会 (1982)。
- 4) 川本 芳, 竹中 修, Edy Brotoisworo: Sulawesi Macaques の種内・種間遺伝的変異—予報—。第27回プリマーテス研究会 (1983)。
- 5) 峰沢 満: ボリビア産新世界ザルの細胞遺伝学的研究・予報。第27回プリマーテス研究会 (1983)。
- 6) 松沢哲郎, 後藤俊二, 東 滋, 長谷川芳典, 和田一雄: ニホンザルにおける食物選択の戦略—食物嫌悪条件づけによる食性の統制—。第27回プリマーテス研究会 (1983)。

研 究 概 要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林の霊長類の社会生態学的研究

河合雅雄・森 明雄・丸橋珠樹¹⁾

西アフリカ・カメルーン国においてドリルおよびマンドリルヒヒの現地調査を1979年より開始、現在も継続中である。1981年度までは主に糞分析法によって採食生態を明らかにして来た。1982年からは、カメルーン国のカンボの動物保護区に集中して、マンドリルを中心としながら同所に生息する7種の霊長類の森林への適応の様相を研究し、比較検討している。マンドリルについては人づけが進み、直接観察が増加し、伝達行動および社会学的データも増加している。

- 2) ニホンザルの個体群生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり、詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。一方、霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され、各人口学的パラメーターに及ぼす餌付けの影響が社会学的階層との関連において追及されている。

- 3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

杉 山 幸 丸

ハヌマン・ランゲールで最初に確認された野生動物社会における種内子殺しの近因と遠因、その相互関係を、野外調査を交えながら理論的に考察している。

- 4) ベルス・チンパンジーの行動生態学的研究

杉 山 幸 丸

1982年11月より翌年3月まで、西アフリカ・シエラレオネのティウィとギニアのボソウにおいて野外調査を行なった。ボソウでの調査は断続的ながら6年半におよび、全個体識別によって出生、消失、死亡、移出入等の個体群動態の長期的把握が進んでいる。

- 5) サバンナに生息する哺乳類の個体群生態学的研究

1) 学振奨励研究員

大 沢 秀 行

東アフリカ・ケニアのサバンナにおいて従来行なってきたシマウマ・パタスザル等の草原性哺乳類の現地調査の結果をまとめている。シマウマについてはゲラダヒヒ・マントヒヒ社会との比較を個体群生態の観点から行なっている。今後は西アフリカのサバンナに範囲を拡げ、パタスザルの研究に集中する予定である。

総 説

- 1) Kawai, M. and H. Ohsawa (1983): Ecology of Japanese monkeys, 1950-1982. "Recent Progress of Natural Sciences in Japan", Vol. 8, "Anthropology", 95-108.
- 2) 河合雅雄 (1982): サルからヒトへ<1> — 生き残るための戦略。創造の世界, 41, 144-173。
- 3) 河合雅雄 (1982): サルからヒトへ<2> — 食性から見たサル類の進化。創造の世界, 42, 118-151。
- 4) 河合雅雄 (1982): サルからヒトへ<3> — サバンナへの挑戦。創造の世界, 44, 128-157。
- 5) 江原昭善・河合雅雄 (1982): サルからヒトへ<4> — 食性と形態からみたヒト化。創造の世界, 45, 120-157。
- 6) 杉山幸丸 (1982): 動物を見て人間を考える。教育じほう, 5:10-14。
- 7) 杉山幸丸 (1983): 霊長類の社会構造。医学概論—産業医大講義集, 1981: 120-126。

論 文

- 1) Kawai, M., R. Dunbar, H. Ohsawa and U. Mori (1983): Social organization of gelada baboons—Social Units and definitions. *Primates*, 24, 13-24.
- 2) Sugiyama, Y. and H. Ohsawa (1982): Population dynamics of Japanese macaques at Ryozenyama. 3. Female desertion of the troop. *Primates*, 23, 31-44.
- 3) Sugiyama, Y. and H. Ohsawa (1982): Population dynamics of Japanese monkeys with special reference to the effect of artificial feeding. *Folia Primatologica*,

39, 238-263.

- 4) Horii, Y., I. Imada, T. Yanagida, M. Usui and A. Mori (1982): Parasite changes and their influence on the body weight of Japanese monkeys (*Macaca fuscata fuscata*) of the Koshima troop. *Primates*, 23, 416-431.

報告・その他

- 1) Hoshino, J. and M. Kawai (1982): Preliminary report on the ecology and sociology of *Mandrillus sphinx* in Cameroon. "Studies on Living and Fossil Primates in Africa" (M. Kawai ed.). pp. 1-17, Primate Research Institute, Inuyama.
- 2) Maruhashi, T. and U. Mori (1982): A preliminary report on the diet and feeding behavior of the drill, (*Mandrillus leucophaeus*). "Studies on Living and Fossil Primates in Africa" (M. Kawai ed.). pp. 18-38, Primate Research Institute, Inuyama.

学 会 発 表

- 1) Sugiyama, Y. (1982): Proximate factors in infanticide and intermale competition among langurs, *Presbytis entellus*, of Dharwar, India. International Symposium on Infanticide in Animals and Man, Ithaca, N.Y.
- 2) 杉山幸丸・大沢秀行: ニホンザルの個体群動態と餌付け群における投餌量。第29回日本生態学会 (1982)。
- 3) 大沢秀行: 2種のシマウマの社会比較—構成メンバーの交替様式。第29回日本生態学会 (1982)。
- 4) 丸橋珠樹: 屋久島の高地に生息するヤクザルの食性。第27回プリマーテス研究会 (1982)。